

市民ファンド推進プログラム【助成事業】（第2期）

2018年度助成 選考総評

選考委員長 安藤 雄太

今年度の市民ファンド推進プログラムの助成対象を決定した。応募件数 14 件を対象に選考委員 6 名による書類審査を踏まえ、助成総額予定が 650 万円（1 団体上限 200 万円）であることから助成対象団体 4～5 件を目安として選考を行った。

選考にあたっては、中間支援組織が NPO 等の活動団体に寄り添いながら支援していく創造的・開拓的プログラムであり、効果ある実践・運営等を期待して審査を行った。

選考委員会では、各委員の推薦案件（5 件）を推薦順位に沿って点数化した上で、先ず推薦点の低かった 5 件について協議した。いずれも、○目的は明確であるが、ニーズや発展性についての検討の有無など含め具体性が乏しい、○目標と実施内容等が合致していない、○実施体制が弱い等、目標や具体的プロセスなどが脆弱であることなどの共通した意見が多かった。

次に、推薦順位が高い委員もいたが全体的には推薦点が低かった 2 件について検討を加えた。寄付者への意識化や助成する力の強化に結びつくなど、企画や問題意識などに対する視点は高く評価されたものの、その実効性や効果性に対する疑問もあった。

最終的に、総じて高い推薦点であった 7 件に絞り各申請案件の検討を行った。その主な意見の要約から、○団体のミッションから目標が明確であり、その手法や実施体制などから実現可能である、○問題意識が明確、○実施体制や方法に具体性がある、○新しいテーマである、○コンセプトが明確である、○従来の取り組みを踏まえ、さらなる発展につながる、などの積極的な意見があった。一方、○目標をさらに絞った方がよい、○この企画内容であればこの助成がなくても実施できるのではないかと、○ファンドレイズ計画の目標額は実行可能か、○問題意識に独自性がない、○効果が見え難い、など厳しい意見もあった。

以上、各委員からの多様な角度からの意見を踏まえ、助成候補 4 件、補欠 1 件を決定することになった。

この決定をもとにして各対象団体に対して事務局がヒアリングを行い、助成対象および助成金額の委員長決裁を行った。助成候補の 1 件は、ヒアリングを実施する中で、現時点で基金が未設置であり、助成期間内にも基金の設置や助成プログラムの開発が実現しないことが明らかになり、助成要件に不備があったことから、助成の対象外とした。その上で、補欠 1 件は新しい可能性が認められることから、これを採択とし、4 件を今年度の助成対象とすることになった。

以下、助成対象となったポイントについて概括してみる。

まず、＜一般財団法人世田谷コミュニティ財団＞「地域の支援力と受援力の双方の向上に向けた助成プログラムの構築」について、これまでの地域での実践を活かし、主体的にかかわる市民を増やすプログラムとその実現が「まちを支える生態系をつくる」ことに向けた着実な実践が可能なプロジェクトとして期待できる。

次に、＜公益財団法人ひょうごコミュニティ財団＞「NPOの成長・発展に役立つ助成プログラムの開発～地域内外の連携を活用して～」は、すでにある2つのプログラムが改善期にあり、さらに新たに1つのプログラムの開発に向けた取り組みと方法は評価できる。今回の助成では確実に有効的な取り組みとなるように2つのプログラムに絞り、人材の育成とプログラムの開発に取り組むことを期待する。

次に、＜認定特定非営利活動法人北海道NPOファンド＞「伴走支援と一体となったクラウドファンディング型助成プログラムの開発」は、クラウドファンディングが単なる寄付金集めではなく、「ファンドレイズの意識や文化」を地域において創ることを目標に、各地域においてクラウドファンディングの実践を通して伴走者を育てる一歩として、2つの地域で試みることは評価できる。

最後に、＜AKBN（アケボノ）ファンド＞「『立ち止まり対話するための助成金』構造化・横展開事業」については、非常にユニークな取り組みであるとの意見もあり、NPOへの助成金ニーズ調査を踏まえて助成のあり方等を提案していただけるものと期待している。

いずれにしても今回の選考にあたり、申請いただいたどの団体も地域制、経験性、実践性などを踏まえての申請内容であり、本来ならどの団体のプロジェクトも関心深い内容であることは言うまでもない。しかし、残念ことに助成枠があることもあり、相対的な視点から助成できなかった。その意味からも今回の助成対象となったプロジェクトをはじめ、申請いただいたプロジェクトも、これからの市民活動が豊かな実践と地域社会づくりをしていくための先駆的事例として位置づけられると思う。とりわけ単なる助成活動ではなく、中間支援組織の本来持つ役割としての伴走的役割と市民に支えられた社会創りを推進する活動団体の基盤と多様なプログラム実践として期待されていくであろう。

（参考：選考経過と結果）

- ・応募受付： 6月15日（金）～6月29日（金） *応募件数14件
- ・書類審査： 7月10日（火）～7月23日（月）
- ・選考委員会： 7月27日（金） *助成候補4件、補欠1件を選出
- ・事務局による現地ヒアリング： 8月中
- ・委員長決裁会合： 9月10日（月） *助成対象4件、助成総額650万円を決定

* * *

2018年度助成 選考委員会

委員長	安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー
委員	阿部 陽一郎	社会福祉法人中央共同募金会 理事・事務局長
委員	今田 克司	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 副代表理事
委員	岸本 幸子	公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事
委員	佐谷 和江	株式会社計画技術研究所 代表取締役
委員	吉野 裕之	一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー